

# 支援を組み立てるための基本Ⅱ

- ・ 強度行動障害の支援に必要な知識

(社福) 同愛会  
竹矢 恒

# この時間で学ぶこと

- 基礎研修で学んだことを振り返ります。
- 支援を組み立てるための基本的な流れを把握します。
- 実践研修の進み方と演習の構成を確認します。

# この時間の流れ①

## 講義

### ① 強度行動障害の理解

- ・ 障害特性の理解

### ② 支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

### ③ 基本的な情報収集

- ・ 行動を見る視点

### ④ 特性の分析

- ・ 特性の把握と適切な対応

### ⑤ チームプレイの基本

- ・ チームプレイの必要性

### ⑥ 支援を組み立てるための基本

### ⑦ 実践研修の進み方と演習の構成

# ①強度行動障害の理解

- ・ 障害特性の理解

## なぜ、自閉症の特性を整理するのか

- 自閉症の人たちは社会では少数派です。その物事のとらえ方は、多くの人たちとは異なります。自閉症の人たちがどのような物事のとらえ方をしているのかは、特性を把握し整理することで見えてきます。

- 特性は、「強み」と「弱み」と言い換えることもできます。「強み」は支援に生かすもので、「弱み」は支援者が配慮するところと言えます。それゆえ、特性の把握においては「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要です。

- 自閉症の人たちの物事のとらえ方に合わせた支援をすることで、自閉症の人たちは適切に学ぶことができ、強度行動障害という状況に陥ることなく、よりよい生活を送ることができます。
- 私たちは、自閉症の人たちの特性を常に学び、支援の基盤に置く必要があるのです。

ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。

- 社会性の特性
- コミュニケーションの特性
- 想像力の特性
- 感覚の特性

# 視点① 社会性の特性

【人や集団との関わりに難しさがある】

相手への関心が薄い

相手から期待されていることを理解することが難しい

相手が見ているものを見て

相手の考えを察することが難しい

【状況の理解が難しい】

周囲で起こっていることへの関心が薄い

周囲の様子から期待されていることを

理解することが難しい

見えないものの理解が難しい

☆ 自分がすべきことが明確であれば、  
集団への適応が増す。

## 視点② コミュニケーションの特性

### 【理解が難しい】

話し言葉の理解が難しい

一度にたくさんのかことを理解するのが難しい

抽象的であいまいな表現の理解が難しい

### 【発信が難しい】

話し言葉で伝えることが難しい

どのようにして伝えたらいいか分からない

誰に伝えていいか分からない

## 視点② コミュニケーションの特性

### 【やり取りが難しい】

場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい  
表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい  
やり取りの量が多いと処理が難しい

☆ 話し言葉だけではない、たとえば目に見えるツールを活用することで、伝達度が増す。

## 視点③ 想像力の特徴

※想像力：目の前にないことをイメージする力

### 【自分で予定を立てることが難しい】

段取りを適切に組むことが難しい

なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい

今やることを自分で判断することが難しい

### 【変化への対応が難しい】

先の予測をすることが難しい

臨機応変に判断することが難しい

自分のやり方から抜け出すことが難しい

## 視点③ 想像力の特徴

### 【物の一部に対する強い興味】

興味・関心が狭くて強い

細部が気になり違いに敏感

少しの違いで大きな不安を感じる

☆ 目の前に存在する視覚情報があると  
わかりやすさが増す。

☆ 自分が興味・関心のある対象への思い  
が強みになることも多い。

## 視点④ 感覚の特性

### 【感覚が過敏または鈍感】

聴覚の過敏や鈍麻がある

視覚の過敏や鈍麻がある

触覚の過敏や鈍麻がある

臭覚の過敏や鈍麻がある

味覚の過敏や鈍麻がある

前庭覚の特有の感覚がある

☆ 感覚に関する反応が、心身の状況や調子の  
バロメーターとなることも多い。

- 「理解に始まって理解に終わる」のが支援なので、  
わかったつもりにならないことが大切です。
- 基礎基本の学びをおろそかにせず、基礎基本に  
いつも立ち返ることはとても重要です。

苦手なことには配慮し、得意なことは活かすのが支援の基本です。

繰り返しになりますが、

得意なことを把握することはとても大切です  
（苦手とされていることも「ここまではできる」という見方もできるし、視点を変えれば「強み」になることもあるはずです）。

## ② 支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

目で見えてわかる支援が基本

# 目で見えてわかる支援をするのはなぜか？

- 自閉症の人は目に見えないことの意味を理解したり思いを伝えたりすることに苦手さがあるから
- 複数の情報を処理することに苦手さがあるから
- 雑多な環境の中から必要な情報に目を向けることに苦手さがあるから

# 目で見えてわかる支援をするために

- わかりにくい情報や生きにくい環境で暮らしている人たち。一人一人にわかりやすい形で届けたり整理したりする必要がある

= その人に合わせた支援

= 合理的配慮

# 確実に伝えたい6つの情報

- 「いつ」
- 「どこで」
- 「何を」
- 「どのくらい」
- 「どうやって」
- 「次は」

## 6つの情報を確実に伝えるための5つの工夫

- 時間の工夫（生活の見通し）
- 場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）
- 方法の工夫（やり方・終わり・次）
- 見え方の工夫（ヒント・着目）
- やりとりの工夫（コミュニケーションツール）

## 時間の工夫（生活の見通し）

- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。

## 場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
  - 整理整頓は基本中の基本
  - エリア（境界）を明確に
  - 場所と活動とが1対1対応できれば理想だが…
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする。

## 方法の工夫（やり方・終わり・次）

- 「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために
  - やることの内容や数や順序が違ってても進め方は同じという“システム”を提示する。

## 見え方の工夫（ヒント・着目）

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
  - 必要な情報に注目しやすくする工夫
  - 見るだけで何をすれば良いかがわかる工夫
  - 情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫

## やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
  - コミュニケーションの手続きを視覚的に示し、コミュニケーションの成功体験をサポート

支援を見直すことの重要性

- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことは当然出てきます。そんなときは、改めて今までの支援を見直し、支援の補整や補強をしていきます。
- この見直し作業を繰り返しながら、本人に合った支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境をつくっていくのです。

# ③基本的な情報収集

行動を見る視点

# 「行動チェックシート」

行動チェックシート

|              |                                | 例   | ✓ | 本人の具体的な行動  |
|--------------|--------------------------------|---|---|------------|
| 社会性          | 人や集団との関係に難しさがある                | ア: 視線が合わない                                    |   | [Redacted] |
|              |                                | イ: 人の関わりが一方的であることが多い                          |   |            |
|              |                                | ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する                            |   |            |
|              | 状況の理解が難しい                      | エ: 周囲に合わせて行動できない                              |   |            |
|              |                                | オ: 周囲の状況に対して興味を示さない                           |   |            |
|              | カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する       |   |   |            |
| コミュニケーション    | 理解が難しい                         | キ: 言葉で指示をしても行動できない                            |   |            |
|              |                                | ク: 言葉で指示されたことと違うことをする                         |   |            |
|              |                                | ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)                     |   |            |
|              | 発信が難しい                         | コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす                         |   |            |
|              |                                | ク: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない                       |   |            |
|              |                                | シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない                 |   |            |
|              | やり取りが難しい                       | ス: やり取りがかみ合わない                                |   |            |
|              |                                | セ: やり取りが続かない                                  |   |            |
|              |                                | ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある                        |   |            |
| 想像力          | 自分で予定を立てることが難しい                | タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている                 |   |            |
|              |                                | チ: 自分から動くことができない                              |   |            |
|              |                                | ツ: 予定の変更に混乱することが多い                            |   |            |
|              | 変化への対応が難しい                     | テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い                       |   |            |
|              |                                | ト: 日課が変更されると混乱することが多い                         |   |            |
|              |                                | ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない                     |   |            |
| 物の一部に対する強い興味 | ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある          |   |   |            |
|              | ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない   |   |   |            |
|              | ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある |   |   |            |
| 感覚           | 感覚が敏感または鈍感                     | ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある         |   |            |
|              |                                | ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある      |   |            |
|              |                                | ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある        |   |            |
|              |                                | フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある         |   |            |
|              |                                | ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある   |   |            |
|              |                                | ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある |   |            |

# 「特性を把握する」という視点

- 個別の「障害特性」に対して周囲の「環境要因」がミスマッチな場合に、その環境に対しての不応行動が生じることがあります
- 本人は困らせている人ではなく、困っている人という視点が重要です
- 個別の困り感に対する合理的配慮が支援の基本となります
- その場合の合理的配慮は、目で見てわかる支援のアイデアを活用することがスタンダードとなっています

# 行動を見る視点の大切さ

- ここまでの講義で、強度行動障害の状態にある人たちは、自分の気持ちをうまく訴えられない特性があることを学びました。
- うまく訴えられない人たちのことを理解するためには、行動が手がかりになります。
- 行動をきちんと観察することで、本人の訴えたいことだけでなく、障害の特性を理解することにもつながります。
- 客観的に観察することで、行動の背景にはさまざまな苦手さがあることに気がつくことができます。

本人の行動は「困っている」サインかもしれません

■本人の行動をヒントに

■特性に気づき

■適切な支援を組み立てていくことで

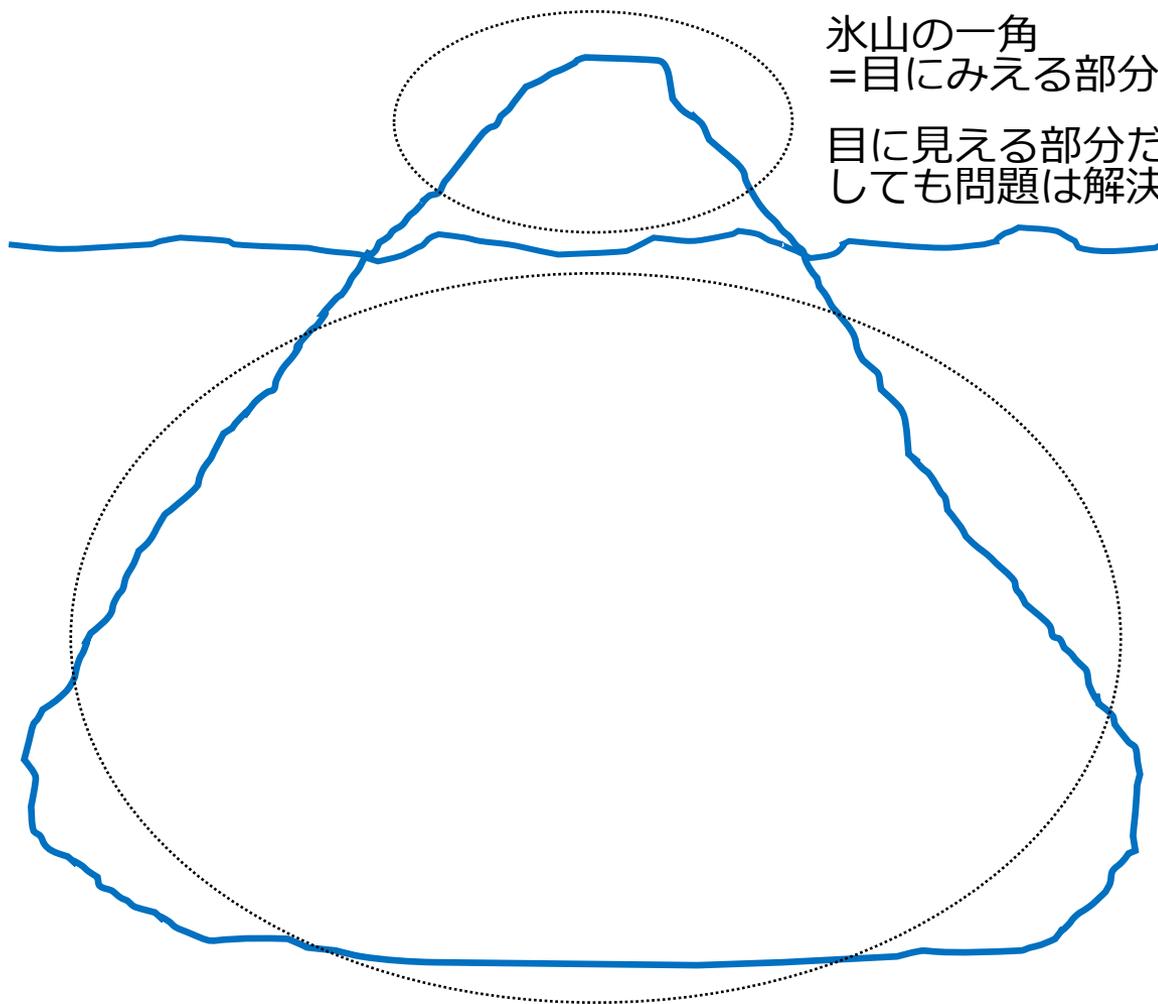


**支援も本人の活動も成功しやすくなります**

## ④特性の分析

- ・ 特性の把握と適切な対応

# 行動の背景を知るための「冰山モデル」



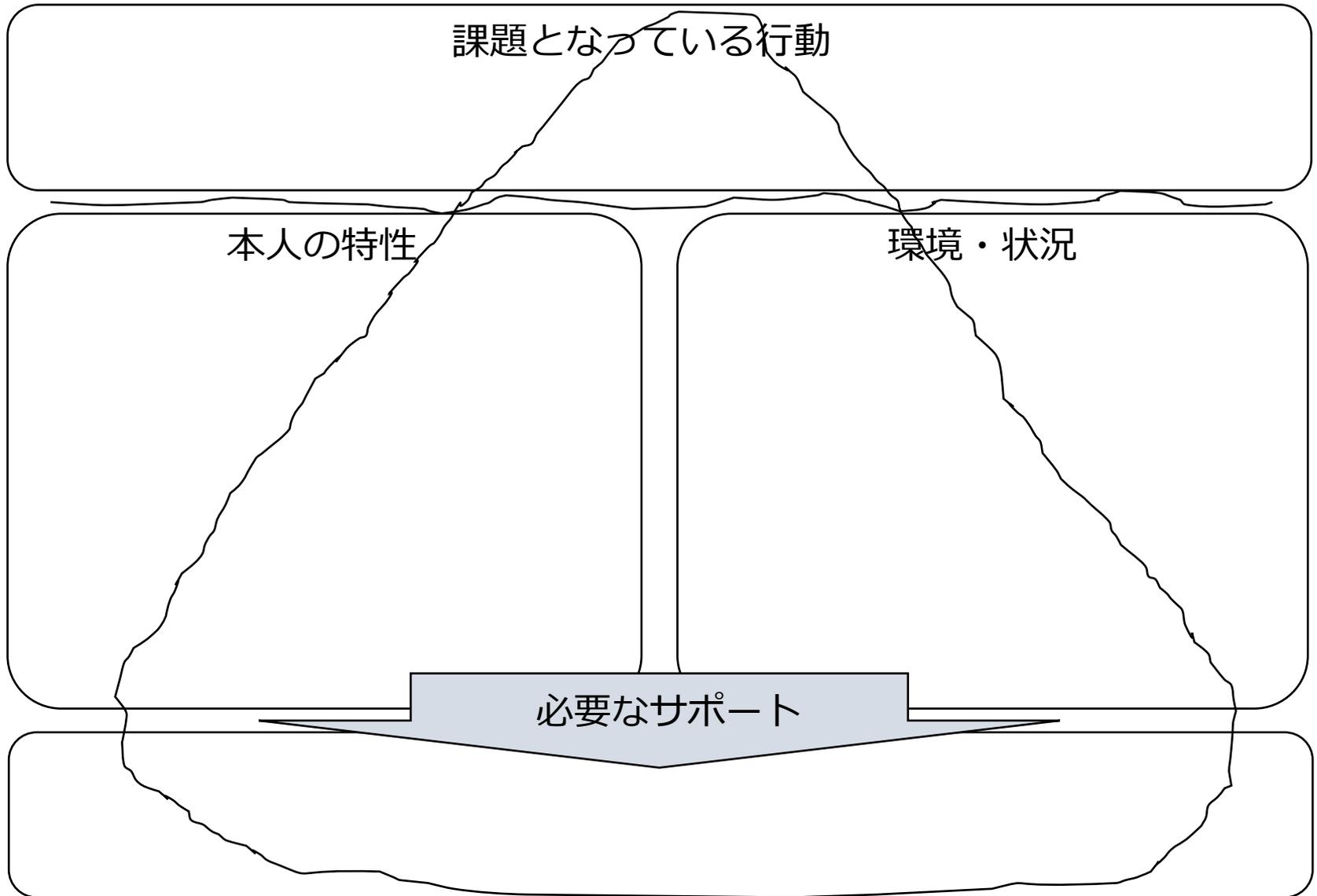
氷山の一角  
=目にみえる部分

目に見える部分だけに対応を  
しても問題は解決しない。

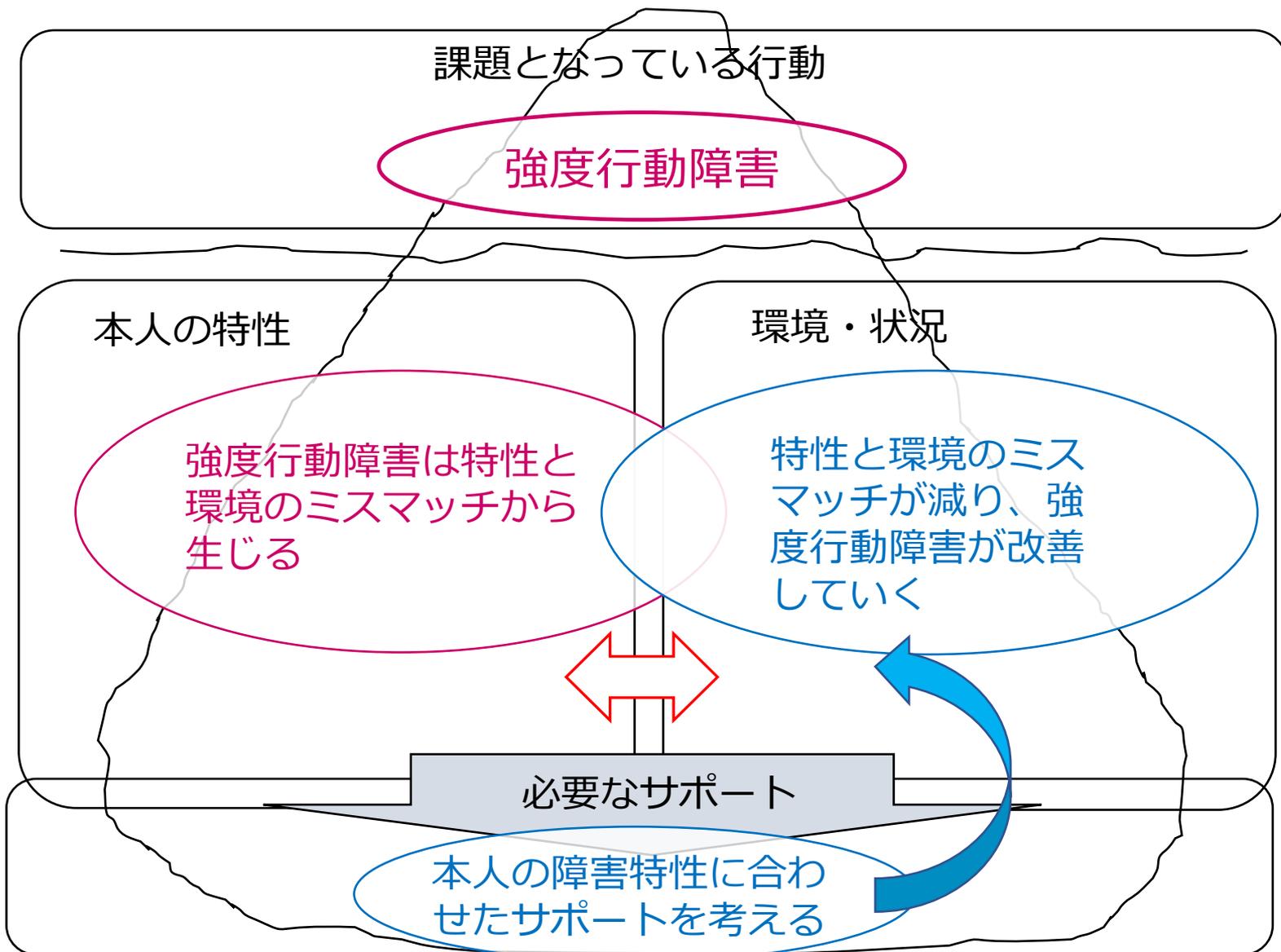
水面下に大きな塊がある  
=目にみえない部分

目に見えない部分を理解して  
アプローチすることで、表面  
に出ている問題が小さくなる。

# 氷山モデルシート



# 氷山モデルシート





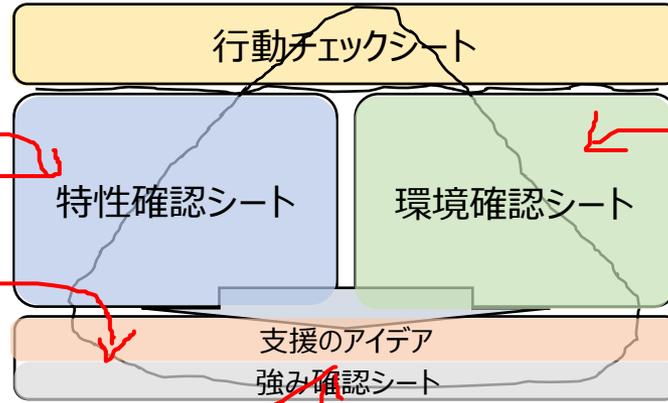
# 氷山モデルシートと 補足シートの関係

行動チェックシート

| 項目 | 内容  | 確認 |
|----|---|----|
| 準備 | 1. 準備が整っているか<br>2. 参加者が揃っているか<br>3. 資料が揃っているか         |    |
| 開始 | 4. 挨拶をするか<br>5. 目的を確認するか<br>6. 議題を確認するか               |    |
| 進行 | 7. 予定通り進んでいるか<br>8. 参加者の発言を促しているか<br>9. 発言内容を整理しているか  |    |
| 終了 | 10. 締めの挨拶をするか<br>11. 次回までの課題を確認するか<br>12. 会議室の片付けをするか |    |

特性確認シート

| 項目 | 内容  | 確認 |
|----|---|----|
| 1  | 1. 目的が明確か<br>2. 参加者が揃っているか<br>3. 資料が揃っているか            |    |
| 2  | 4. 挨拶をするか<br>5. 目的を確認するか<br>6. 議題を確認するか               |    |
| 3  | 7. 予定通り進んでいるか<br>8. 参加者の発言を促しているか<br>9. 発言内容を整理しているか  |    |
| 4  | 10. 締めの挨拶をするか<br>11. 次回までの課題を確認するか<br>12. 会議室の片付けをするか |    |



環境確認シート

| 項目 | 内容  | 確認 |
|----|---|----|
| 1  | 1. 目的が明確か<br>2. 参加者が揃っているか<br>3. 資料が揃っているか            |    |
| 2  | 4. 挨拶をするか<br>5. 目的を確認するか<br>6. 議題を確認するか               |    |
| 3  | 7. 予定通り進んでいるか<br>8. 参加者の発言を促しているか<br>9. 発言内容を整理しているか  |    |
| 4  | 10. 締めの挨拶をするか<br>11. 次回までの課題を確認するか<br>12. 会議室の片付けをするか |    |

強み確認シート

| 項目 | 内容  | 確認 |
|----|---|----|
| 1  | 1. 目的が明確か<br>2. 参加者が揃っているか<br>3. 資料が揃っているか            |    |
| 2  | 4. 挨拶をするか<br>5. 目的を確認するか<br>6. 議題を確認するか               |    |
| 3  | 7. 予定通り進んでいるか<br>8. 参加者の発言を促しているか<br>9. 発言内容を整理しているか  |    |
| 4  | 10. 締めの挨拶をするか<br>11. 次回までの課題を確認するか<br>12. 会議室の片付けをするか |    |

# 氷山モデルシートが完成しました

## 課題となっている行動 水遊びを止められて自傷をする

### 本人の特性

- 1) 相手への関心が薄い
- 5) 周囲の様子から期待されていることを理解するのが難しい
- 6) 見えないものの理解が難しい
- 7) 話し言葉の理解が難しい
- 11) どのようにして伝えたらいいかわからない
- 18) 今やることが自分で判断することが難しい
- 19) 先の予測をすることが難しい
- 22) 興味関心が狭くて強い
- 27) 触覚の過敏や鈍麻がある

### 環境・状況

人：支援者はことばで指示を出している  
物：水道が見えやすい場所へ出かけている  
場所：公園での目的が柵でゆれるか、水道で遊ぶかに見えていた  
状況：どうなったら終わりがわかりにくい  
状況：公園に何をしに行ったのかわからない

### 必要なサポート

#### (支援のアイデア)

- C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える
- D) 本人が理解できる見える情報で伝える
- G) 本人にわかりやすく予定を伝える

#### (活かせそうな強み→活かせそうな場面)

- ・お茶を見せるとベンチに座って飲むことがわかる→活動の切り替えにお茶を使えないか
- ・絵本の「くるま」を見て「外出」するのだと理解したことがある→イラストで活動を知らせられないか
- ・物に注目できる→タイマーなどで終わりを伝えられないか
- ・揺れる感覚に没頭することがある→揺れる感覚で適切な遊びを提供できないか

# まとめ

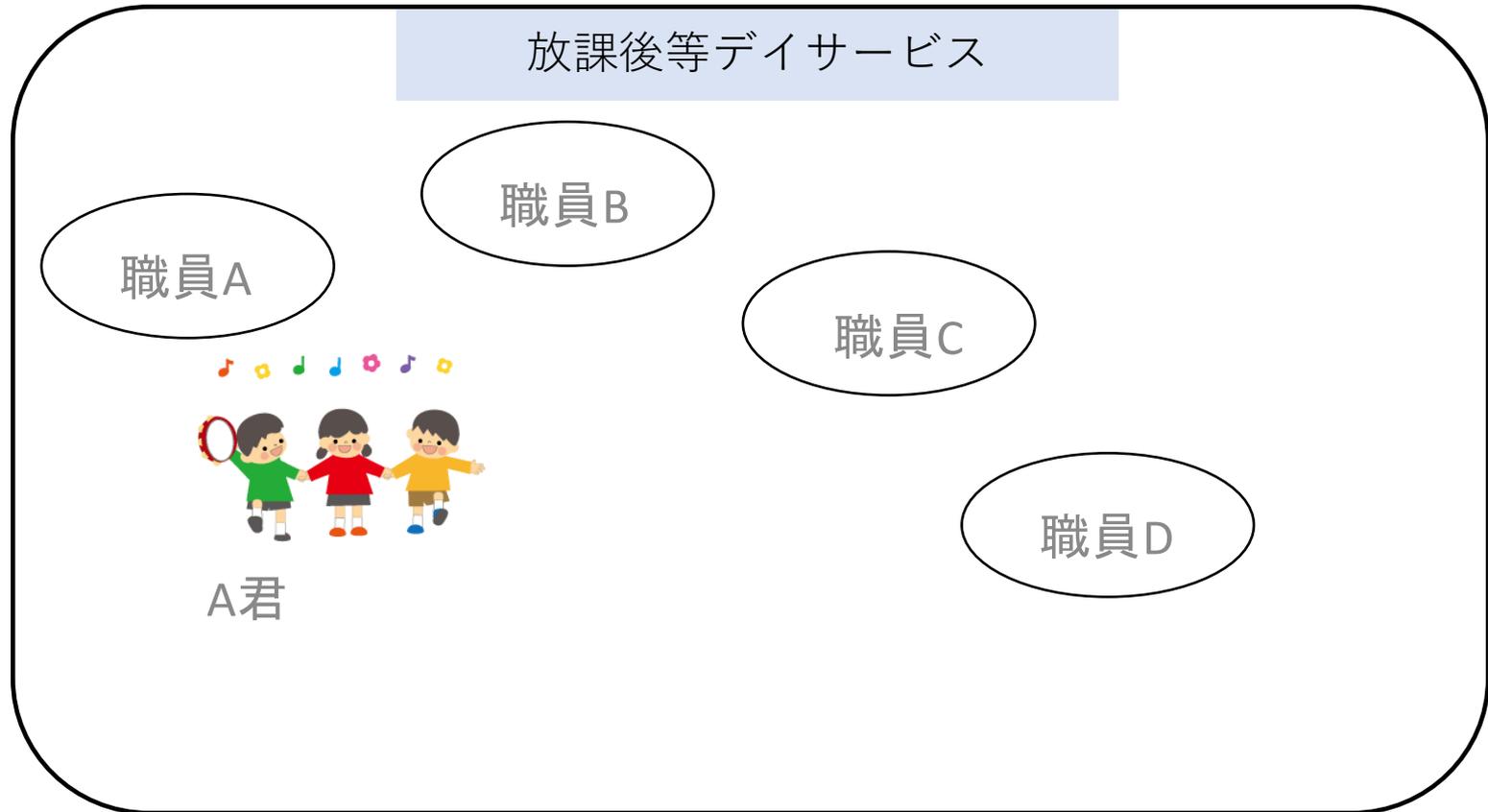
- 課題となる行動には、障害特性に起因する何らかの理由がある
- 「冰山モデル」を使った行動の背景を捉える考え方が有効
- 「本人の特性」と「環境や状況」を整理し課題となっている要因を明らかにすることが根拠に基づいた適切な支援の第1歩
- 導き出された支援のアイデアは、本人の強みを使って具体化される

# ⑤ チームプレイの基本

チームプレイの必要性

チームで支援する必要性

事業所の中では、複数の職員が本人に関わります。



本人の現在の生活は、さまざまな関係者で支えられています。

家



学校



放課後



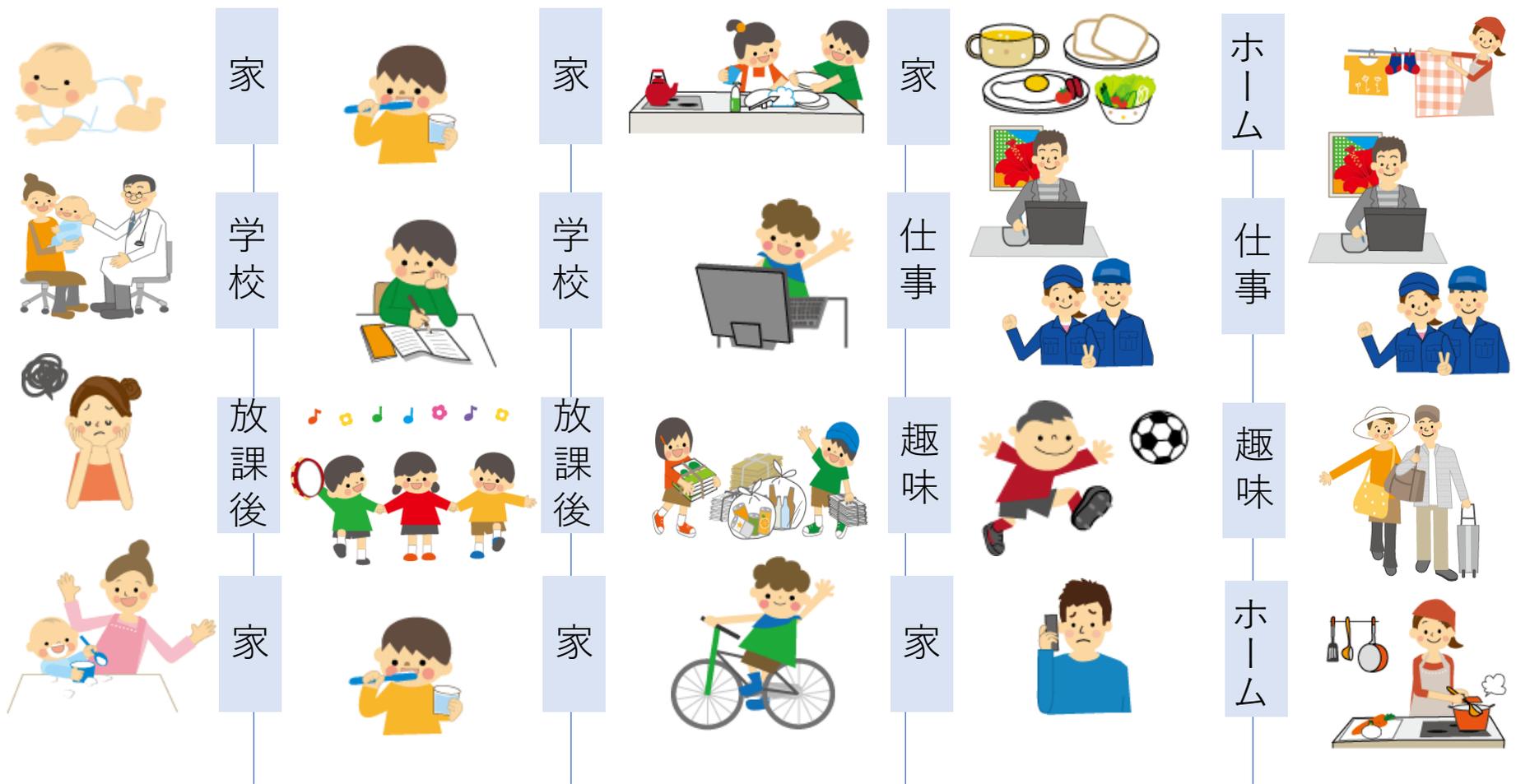
A君の生活（24時間）のうち、  
放課後等デイサービスにいるのは3時間ほど

家



現在  
7歳

# 本人の支援は、現在の関係者だけでなく、 過去・現在・未来の関係者もつながっています。



産まれてから今  
まで。家族・発達  
支援・医療等

現在  
7歳

6年後  
13歳

11年後  
18歳

21年後  
25歳

I その人の特性や人生のニーズを把握する

II その人の特性に配慮した支援を考える

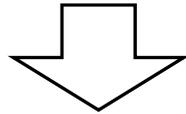
III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

関係者が必要な支援や特性を共有することが重要

それぞれの関係者が、本人の特性に関係なく、  
思い思いのやり方で接してしまうと・・・



本人が混乱してしまう。

それぞれの場面やライフステージにおける関係者が、本人を支えるチームのメンバーとして、本人の特性や配慮すべきことについて共通の認識を持ち、同じ方針に沿った統一した支援をしていくことが大切。

統一した支援をするために

## チームにおける情報共有や連携の方法

- 日ごろからお互いに頻繁なやり取りをする
- 個別の支援会議（ケース会議）を開催
- サービス等利用計画
- 個別支援計画
- 支援手順書